

保険証が廃止される!?

これまでどおり保険証を使いましょう

よしだ内科クリニック

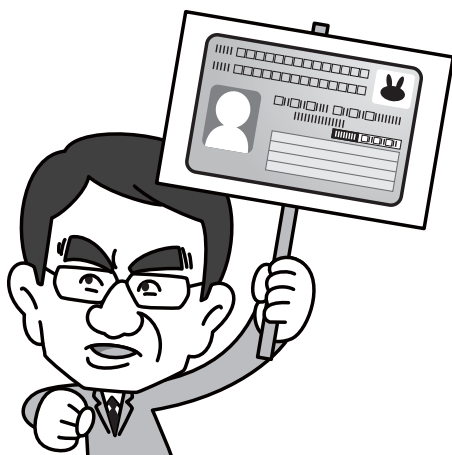
吉田 章

2022年10月13日、河野デジタル大臣が記者会見し、2024年度秋を目処に保険証を廃止すると発表し世間を驚かせました。保険証を廃止し、マイナンバーカード（マイナカード）で代用しようというものです。「マイナンバー普及の策として」という前置きがあったように、総額2兆円にも及ぶマイナポイントを付与したにもかかわらず、10月時点でまだ国民のほぼ半数が同カードを取得していない状況で、業を煮やした結果、強硬策に打って出たというところでしょう。

わが国は国民皆保険制をとっており、保

険診療を受ける際、保険証を医療機関に提示することが必要です。その保険証がなくなれば、代わりとなるもの、すなわち政府が用意したマイナカードを取得せざるを得ないことになるわけです。河野大臣の発表どおりになるとすれば、半数ちかくの国民がこれから約2年のうちに同カードを取得しなければなりません。取得していない方の中には、マイナカードを持ちたくない方もいるはずですが、その方々も医療を受けるために強制的に取得せざるを得なくなることになります。

一方医療機関では、提示されたマイナカードで保険資格を確認するためには特別な設備を用意する必要があります。オンライン資格確認システムといわれていますが、その設備がととのっている医療機関は10月時点で約3割しかありません。このシステムは多くの問題点を含み、導入には逡巡している医療機関も少なくないのです。政府は厚生労働省令を改定して同設備を義務化し、2023年3月までに用意できなければ保険医取り消しもあり得ると脅迫に近い強硬



姿勢で臨んでいます。

◆オンライン資格確認システムが施行されたらどうなるか、まず直面すること

患者側：今まで月一回窓口で保険証を提示すればよかったものが受診のたびに、マイナカードを出し、自分でカードリーダーに情報を読み取らせ、さらにカードリーダーに備え付けられたカメラで顔を撮影され、カード内部に格納された顔写真のデータと照合して本人確認するという手順を踏みます。マイナカードは医療機関で預かることはできないため、一連の作業を患者本人がおこなわなければなりません。

医療機関側：どんなに患者さんが手間取ろうとマイナカードを預かれないため、直接手助けができず、間接的なアドバイスで手続き完了を待たなければなりません。またマイナカードの紛失が起こった場合には保険証のときと比較にならない混乱が起こるでしょう。

以上のように窓口受付だけでも大混乱が予想されます。

◆なぜ、政府はそれほどまでしてマイナカード普及を急ぐのでしょうか？

今まで支障なく行われてきた保険証での保険資格確認をわざわざ保険証を廃止してまでマイナカードで代用することを急ぐのはなぜでしょうか？それはこのオンライン資格確認システムが、単に保険証資格を確認するためだけのものではなく、将来的にこのシステムを使い、各医療機関の電子カ

ルテの情報を収集し大きなデータベースを作ることが計画されているためです。さらに、全国医療情報プラットフォームと名づけられたそのデータベースは、医療機関が使うだけでなく、行政ほか各企業等が接続し、データを「利活用」することが計画されています。政府はこのシステムを医療DX（デジタルトランスフォーメーション）の基盤と位置づけ医療改革の柱としていますし、経済界もまた経済再生にとっての死活的問題として重要視しています。

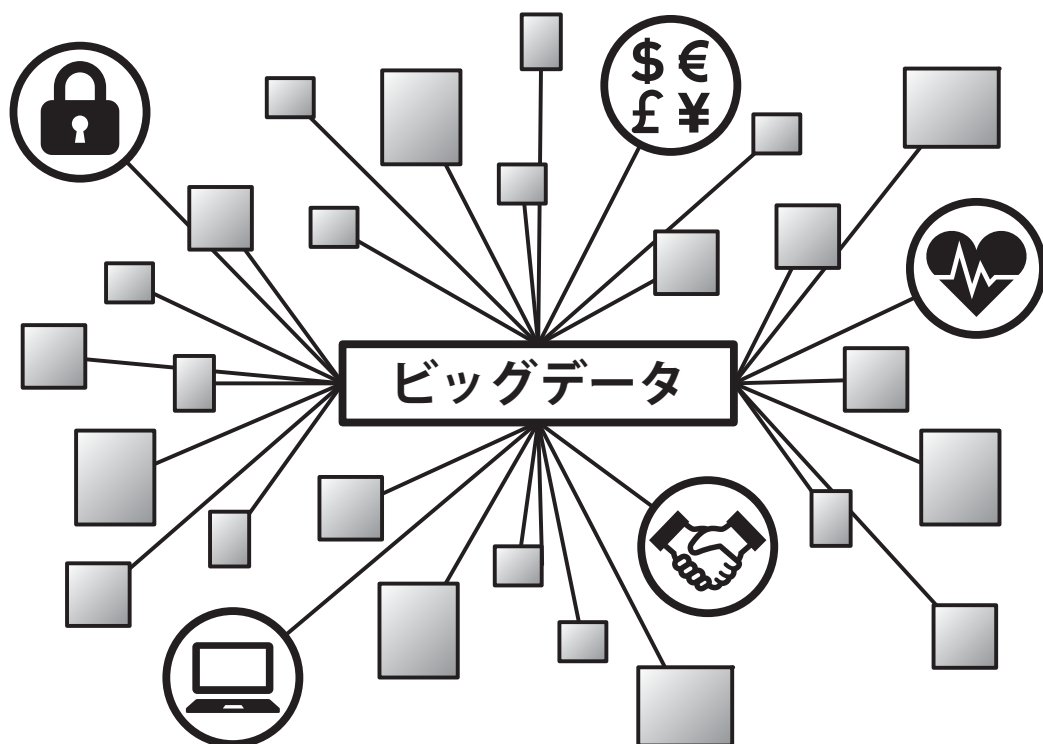
ここで、ちょっと立ち止まって考えてみましょう。

もともになるデータは、各医療機関で行われた医療の内容です。医療内容は患者さんの最重要のプライバシーがつまっています。この重要な情報がいつのまにか集められ「利活用」されようとしているのです。保険証としてマイナカードを使うことが、自分の医療情報を各方面で「利活用」されることに通じるなどという、きわめて重大なことが現在国民に説明されているのでしょうか？

◆全国の医療機関をインターネットにつなぐ危険性

また、この仕組みは医師の守秘義務にも抵触しかねませんが、このことは医療機関に説明されているのでしょうか？

さらに、このオンライン資格確認システムが普及すればわが国の医療機関が一つのネットワークでつながることになります。そしてこのネットワークはインターネットを使用しています。いくら安全装置を備えてもインターネットで世界につながってし



まうわけです。

現在、医療機関がサイバー攻撃を受け診療停止する事例が相次いでいます。2021年11月の徳島県つるぎ町の半田病院が約2カ月間ストップした事件は有名ですが、その後も同様の事件が相次ぎ、この原稿を書いている今も、大阪急性期・総合医療センターという800床以上の大病院がランサムウェアというサイバー攻撃により全科診療停止したというニュースが飛び込んできました。日本全国の医療機関をインターネットによってつなぐオンライン資格確認システムがこのような攻撃を受けた場合、全国の医療機関で診療停止する事態も危惧されます。

◆まとめ

保険証をマイナカードで代用する制度は

保険証を確認するためだけではなく、電子カルテから患者さんの医療情報を集め、各方面で「利活用」していくためのものです。このことによる患者さんのプライバシー侵害については十分議論されないまま前のめりに進められています。さらに医療機関の電子カルテをインターネットにつなぐことで我が国すべての医療を危機にさらしかねない危険も含んでいます。

政府には、いたずらに制度導入を急ぐのではなく検討に十分時間をかけることを望みます。それと共に、患者さんの皆様には、現行の保険証を使い続けることがこの制度導入にブレーキをかけることになるため、今までどおり保険証をもって受診していただければと思います。

(よしだ・あきら＝練馬区)